花王

5年連続でCDPから3分野全てで最高評価を獲得

花王はこのほど、国際ＮＧＯであるＣＤＰが世界の調査対象企業2万4800社以上に対して実施した「気候変動」「フォレスト」「水セキュリティ」分野に関する3つの調査全てにおいて、最高評価の「Ａリスト企業」に選定された。花王は5年連続5回目のトリプルＡ獲得となり、「気候変動」分野は6回目、「フォレスト」分野は5回目、「水セキュリティ」分野は8回目の選定となった。

選定にあたり、執行役員ＥＳＧ部門統括の大谷純子氏は、「花王は長年にわたり、ステークホルダーの皆さんとともに、製品ライフサイクル全体での環境・社会課題の解決に真摯に取り組んできた。私たちは、イノベーションを通じて、日々の生活における課題を解決する、高性能かつサステナブルな製品を提供することで、生活者の皆さんがよりよく快適に暮らせるようになることをめざしている。この考え方はＥＳＧ戦略『Ｋｉｒｅｉ Ｌｉｆｅｓｔｙｌｅ Ｐｌａｎ』の根幹であり、事業の『レジリエンス』を念頭に置きながら、現在だけでなく、将来に向けた意思決定を行っている。これからも時代の先を行く活動を、幅広い花王の事業領域で着実に推進し、パーパスである『豊かな共生世界の実現』に向けて努力していく」としている。

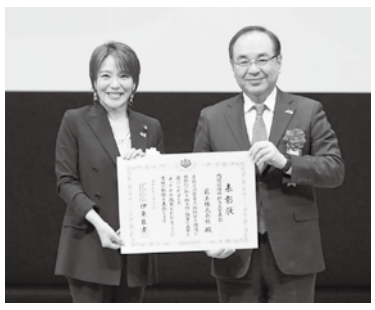
花王は、脱炭素社会の実現と持続可能な事業への貢献をめざし、2040年カーボンゼロ、2050年カーボンネガティブの実現に向け、革新的な技術の開発や、ステークホルダーとの連携によるバリューチェーン全体のCO₂排出量削減などに取り組んでいる。

森林については、環境保全、資源保護、人権を重視したＥＳＧ調達を推進。トレーサビリティの確保に努め、サプライヤーとの対話を通じ、持続可能な調達のため2025年までに森林破壊ゼロ達成をめざしている。また、水資源の持続可能な利用を経営の重要課題の1つととらえ、さまざまな取り組みを進めている。すすぎが1回で済む衣料用濃縮液体洗剤「アタックＺＥＲＯ（ゼロ）」、すすぎ時にすばやく泡切れする食器用洗剤「キュキュット」など、節水効果の高い製品の提供などを通じて、製品ライフサイクル全体にわたり水保全を進めている。

花王

令和6年度消費者志向経営優良事例表彰にて最高賞を受賞

花王はこのほど、消費者庁が主催する「令和6年度消費者志向経営優良事例表彰」にて、最高賞である内閣府特命担当大臣表彰を受賞した。



消費者志向経営優秀事例表彰は、消費者と共創・協働して社会価値を向上させる消費者志向経営において、事業者が行っている優れた取り組みを表彰するもの。受賞にあたっては、つめかえやすさと耐久性を維持しながら容器を薄肉化し、プラスチック使用量を削減した食器用洗剤「キュキュット」のつめかえ容器や、外出先での手軽な塗り直しや容器のつけかえが可能なノンガスミストタイプの日やけ止め「ビオレUV アクアリッチ アクアプロテクトミスト」など、生活者のニーズや環境意識の高まりを捉え、環境に配慮した行動を促す「生活者参加型」の商品開発がなされている点が評価された。

生活者向けの商品に加えて、化学処理技術を活かして開発された、廃棄されるPET素材を原料とした高耐久アスファルト改質剤「ニュートラック」も評価の対象となった。「ニュートラック」は、資源循環に寄与するとともに、アスファルト張替工事の減少に伴う二酸化炭素排出量の減少や交通渋滞の減少に貢献している。40万㎡以上の道路や駐車場等のアスファルト舗装実績があり、自治体等と連携し、廃漁網や海洋プラスチックごみを原料とした実証実験や寒冷地向け商品を発売するなど事業を拡大している。

アルビオン

油脂工業会館主催の油脂技術優秀論文で優秀賞を受賞

新規乳化構造を有する使用感に優れたクレンジング製剤開発に高評価

アルビオンは、一般財団法人油脂工業会館が主催する令和6年度油脂技術優秀論文で「優秀賞」を受賞した。

優秀賞を受賞した論文のタイトルは「Hierarchical Emulsion Structure and Functionality Regulated by Coexisting Bicontinuous Microemulsion and Liquid Crystal Domains」。新規乳化構造を有するクレンジング製剤開発に関するもので、学術的意義があるとともに産業利用への貢献が高いことが評価された。なお、この論文はアメリカ化学会発行の学術雑誌「Langmuir」（2024年2月発行）のカバーアートにも採用され、注目を集めている。

研究では、クレンジングオイルに応用されるバイコンティニュアスマイクロエマルション（BCME）の、クレンジング力に優れるものの低粘度であるという使用性の課題克服に取り組んだ。ラメラ液晶（LC）との共存によってBCME構造を維持したまま増粘することに成功し、これを「BCLC乳化」と呼ぶこととした。

さらにこの乳化物は、油相と水相が両連続的に混ざり合い、その油帯中に油滴が数珠状につながる非常にユニークな乳化状態であることも突き止めた。

機能性に関してもBCME由来の優れたクレンジング力を維持しているだけでなく、増粘することで課題であった使用性の改善、とろけるような感触を付与した新たなクレンジング基材の開発に成功した。

私の H＆B 日記

函館旅行記

先日、旅行で函館に行き、旧函館区公会堂を訪れた。

集会所・商業会議所の事務所として1910年9月に建てられた旧函館区公会堂は、国の重要文化財に指定されている。

歴史の教科書で見たような代表的な明治洋風木造建築で、かつては大正天皇や昭和天皇が北海道行啓の際に行幸されたほか、平成元年には当時の天皇皇后両陛下も行幸されたそうだ。

外壁は青灰色と黄色で塗られており、遠くから見ても目立つほど印象的な装いをしている。1980年から行われた保存修理工事に際しての調査で、旧公会堂の外壁の色が竣工当初、青灰色と黄色であったことがわかり、ピンク色と白色だった外壁を塗り替えて竣工当時の姿に復元したと記されていた。

館内には当時の調度品がそのまま展示されており、旧公会堂の歴史について記されていた。館内の装飾は外国人による指導ではなく、洋風建築物の視察を通して日本人職人が考案して作ったものだと記されていた。柱の飾りや窓、照明の取り付け部分に至るまで細部にデザインが施されており、当時の技術力の高さに驚かされた。

和風の浴室の隣に洋風の浴室も設けられていたところに、日本人気質を感じた。

旧公会堂は現在も建築当初の部材が多く使われており、定期的な工事が行われている。

昭和に行われた修理の際には柄のついたリノリウムの断片が見つかったが、当時は技術的な問題で柄を復元することができなかった。デジタル印刷技術を使用することで、2階にある大広間のリノリウムの柄を再現できたという。

その大広間に向かい、床を見ると、寄木細工のような繊細な模様が床一面に広がっていた。高貴な雰囲気を感じるとともに、技術を駆使して価値ある建物を残していく大切さを改めて感じた。（上）

ヒアルガードがPCHi2025で金賞受賞

一丸ファルコス

広州にて開催された化粧品原料展示会「PCHi2025」において「中国の美容・化粧品業界に重要な貢献をする企業や個人」に贈られる化粧品技術革新賞「PCHi 2025 Fountain Award」で、同社が開発した化粧品原料「HyaluGuard（ヒアルガード）」が保湿部門の金賞を受賞した。

一丸ファルコスは、中国・広州で開催された化粧品原料展示会「PCHi2025」において「中国の美容・化粧品業界に重要な貢献をする企業や個人」に贈られる化粧品技術革新賞「PCHi 2025 Fountain Award」で、同社が開発した化粧品原料「HyaluGuard（ヒアルガード）」が保湿部門の金賞を受賞した。

同社では2023年5月より、真皮ヒアルロン酸分解を司るHYBIDの発現を抑制し、真皮ヒアルロン酸の低分子化を防ぎ、たるみやシワなどの老化症状の予防・改善への効果が期待されるアンチエイジング天然原料として、カワラヨモギエキス「ヒアルガード」を販売してきた。

今年のPCHi 2025 Fountain Awardの活性原料賞は12部門に分類されており、保湿部門ではヒアルガードを含め5製品が入選していたが、同原料が金賞となった。PCHi Fountain Awardでの同社の受賞は、2024年の「ジュニパーブライト」での活性原料賞受賞に続き、8回目の受賞となる。

PCHi Fountain Awardは、毎年中国で開催される化粧品原料展示会「PCHi（Personal Care and Home care Ingredients）」が2010年に創設、2017年に正式に名付けられた賞で、新製品や先端技術業界のリーダーや個人の先駆的かつ革新的で継続的な開発を評価し、刺激することを目的に贈られる。今回の受賞を機に、HYBIDや真皮ヒアルロン酸に注目したアンチエイジング天然原料として、日本国内やグローバル市場にてさらなる拡販に努めていく。

S&P Global社の「Yearbook Member」に初選定

ライオン

ライオンは、世界的な調査・格付け会社である米国のS&P Global社によるサステナビリティ評価「The Sustainability Yearbook 2025」にて、「Household Products」業界における上位5%の企業に初めて選定された。

S&P Global社は、世界の主要な企業を対象に経済・ガバナンス、環境、社会性の側面からサステナビリティの取り組みを評価しており、各産業において特に評価の高い上位15%を「Yearbook Member」として毎年選定し、「The Sustainability Yearbook Member」に選出された。

Yearbook」に掲載している。今年は評価対象7690社以上のうち、780社が「Yearbook Member」に選出された。